

令和5年産 大豆「東北194」耕種概要について

項目	ファーム坊ノ森	(農) 一木
播種日	5/25 (木)	5/28 (日)
前作	水稻	大麦
面積	30a	20a
播種機	10条植・スリップローラーで鎮圧	7条植・単独ローラーで鎮圧
条間	25cm	25cm
播種深度	3～4cm	4cm
播種量	6.5kg/10a	9kg/10a
肥料(基肥)	BB大豆一発M 30kg/10a	BB大豆一発N25 30kg/10a
排水対策	額縁明渠、弾丸暗渠	額縁明渠、弾丸暗渠
除草剤	5/25 (木) クロロIPC+エコトップ乳剤	確認中

【5/25（木）】



【7/4（火）】

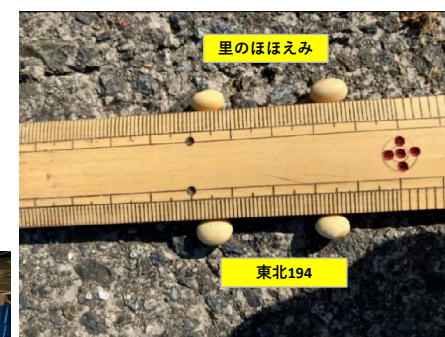


【9/27（水）】

※落葉期に突入。着莢数は多い印象。葉焼病は里のほほえみよりと同等の印象。着莢位置は一木同様に低い。



【10/17（火）】



※本日収穫。青立ちが目立っていたが、里のほほえみも同様。

※最下着莢位置は東北194で平均14cm前後、里のほほえみで21cm前後。

※粒径はやはり里のほほえみの方が大きい（平均90～110cm）。東北194は70～90cmの印象。

※粒形は東北194の方がやはり楕円。

※最下着莢位置が低いため、下部の刈取ロスが懸念されたが僅かに留まった印象。

（刈取位置がオートセンサーによって自動上下するコンバインを使用）

※数粒を指で潰したところ、里のほほえみは爪で傷が付く硬さ、東北194は男性の力だつつぶれる程軟らかい状態であった。

⇒収穫適期はもう少し後だったのか。

※松南ビーンセンターで生重量・水分量を測定。 生重量1,040kg、水分量19～20%。乾燥で5%水分が飛ぶことを踏まえると、

推定収量988kg（約330kg／10a）。

※数日間、松南B Cで籾クーラー・扇風機で乾燥。



【5/28（日）】



【6/8（木）】



【6/19（月）】 ※本葉2葉期前後。慣行区に比べ植勢は旺盛。



【6/28（水）】 ※本葉4葉期前後。慣行区も生育ステージは同じ。194の播種量が多かったためか慣行区よりも繁茂している様子。



【7/28（金）】 ※開花期に突入。里のほほえみと生育進度はほぼ同じ。葉色・植生ともに東北194の方が旺盛。



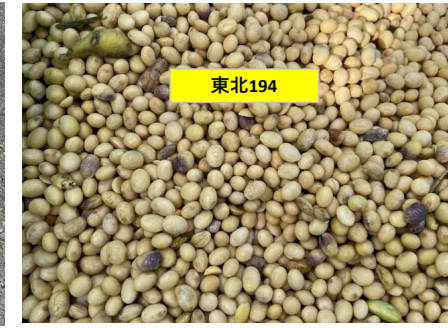
【8/28（金）】 ※子実肥大期に突入。葉色・植生の差が縮まった印象だが、東北194の方がまだ葉色は濃い。
※東北194・里のほほえみともに葉焼病が散見されたが、東北194の方が発病率は少ない印象。
※着莢位置は前年同様、里のほほえみよりも低い。



【9/27（水）】 ※落葉期に突入。密植での播種となったためか着莢数は前年に比べ大人しい印象とのこと（農林担当者談）
 ※着莢位置は前年同様、里のほほえみよりも低い。
 ※葉焼病は里のほほえみよりも少ない印象（ウィルスの可能性もありか?）



【10/19（木）】



※本日収穫。青立ちが目立っていたが、里のほほえみも同様。東北194圃場については畔際に青立ちが多く発生。
 ※東北194の播種量が多かったためか、1株あたりの着莢数は里のほほえみよりも少ない。今年里のほほえみの莢数は多い印象とのこと。
 ※坊ノ森同様、最下着莢位置が低いため、下部の刈取ロスが懸念されたが僅かに留まった印象。
 （刈取位置がオートセンサーによって自動上下するコンバインを使用）
 ※粒を指で潰したところ、傷が若干付く程度。やや過乾燥気味。
 ※松南ピーンセンターで生重量・水分量を測定。 生重量682kg 水分量12.6% **反収341kg/10a。**
 ※紫斑病が目立った印象。基幹防除1回目にアミスターは散布しているとのこと。
 ※外観は、粒のパラつき・しわ等が散在しており決して綺麗とは言えない印象。